

眼振(nystagmus)検査-電気生理学的検査を使用しない方法



目的

眼振の簡単な診断

参考) 藤山由紀子視能学 P460, 三村治: 新臨床神経眼科学 P169~P175 他

準備物 固視目標

眼振があるかを確認する



波線で被検者の方向。

なし(○)か? 疑わしい(⊖)か? 左へ疑わしい(⊖)か? 下に疑わしい(⊖)など

例)

眼振だ!



速い方の動き(急速相)が眼振の向きだよ!

例) 記載方法



眼振の方向は

- ・同じ(振り子様眼振: pendular nystagmus ←→)か?
- ・どちらかが速い(律衝動性眼振: jerky nystagmus →)か?

めまいを伴う場合矢印を○で囲む。(⊖)

例)

左向きが急速相だった! →

正面位での眼振の種類は

- ・水平性(→)か? ・垂直性(↑)か?
- ・回旋性(↻)か? ・斜行性(↗)か?
- ・混合性(↻→)か? ・混在性(↑+↻)か?

例)

水平性だった! →

これは水平回旋性

時によって2方向以上の眼振方向を持つ



例)

狭かった! →

往復する範囲(振幅)は

- なし (○)か?
- 小打性 fine : 狭い(→)か?
- 中打性 medium: 中位(⇒)か?
- 大打性 course : 広い(≡)か?

臨床では視診が多いが、詳しく言えば1回の眼振で移動する偏位角を矢印の数で記載する。

- 1 mm 又は 5° 以下
- 1~3 mm 又は 5~15°
- 3 mm 又は 15° 以上



視能学とは少し記号が違う。

単位時間当たりの眼振打数。
毎分 4(5)0 以下
毎分 4(5)0~100
毎分 100 以上

振動の数(頻度)が

- 小頻打性 slow : 少ない(→)又は(→)か?
- 中頻打性 moderate: 中位(⇒)又は(⇒)か?
- 頻打性 frequent : 多い(≡)又は(≡)か?

例)

中程度だった! ≡→



側方視、上方視の主とする角度の記載が調べても不明。

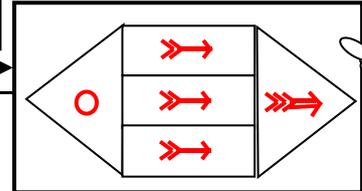
- grade I 方向を見た時のみ眼振がある。
- grade II 第一眼位で眼振がある。
- grade III どの方向でも眼振がある。

側方視・上下方視でも出来る範囲で眼球運動をさせ、同様に眼球の動きを観察し記載する

例)

右方視でほぼ止まり、上下方向では差はないが、左方視で振幅頻度が増した!

結果・記載例)



左右眼で所見が異なる場合別々に記載すること。

NO 方向による眼振に変化があるか? YES

眼位性眼振でない

眼位性眼振

どの角度で眼振が消失(null point)又は減弱(nutral zone)するかを再確認する

NO 輻湊時などに眼球の動きが変化するか? YES

例)

輻湊時変化なし(注視時減少)

輻湊時減少(注視時増加)

後天性眼振が多い

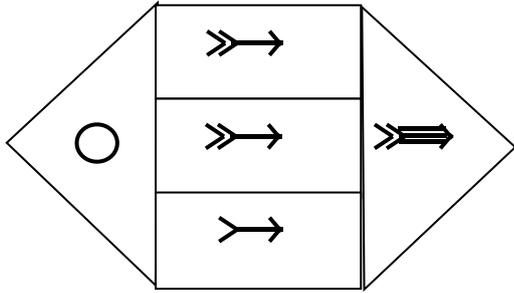
先天性眼振が多い

NO 一眼を遮閉した時に眼振が増大するか? YES

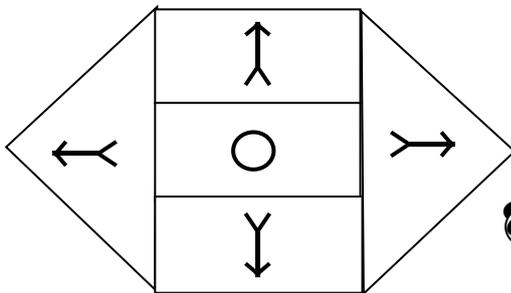
潜伏眼振でない

潜伏眼振

結果例色々



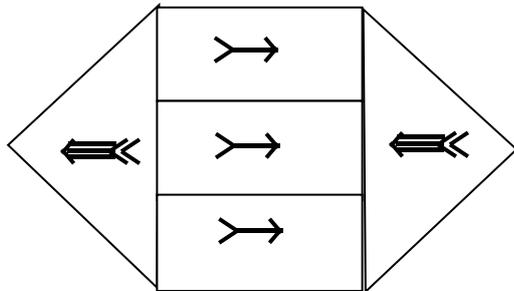
眼振の向きは？	左向き
眼振の種類は？	律動性(衝動性)
静止位は？	右方視
Alexanderの法則	有り



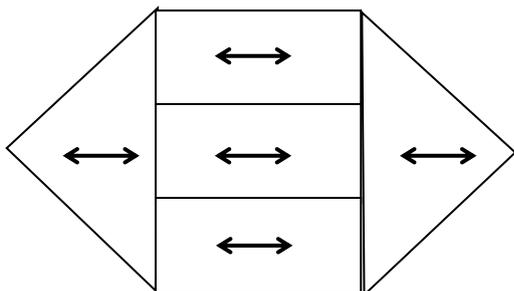
眼振の向きは？	注視向き(注視方向性眼振という)
眼振の種類は？	律動性(衝動性)
静止位は？	正面視
Alexanderの法則	有り



この法則は本により
定義が若干違う。



眼振の向きは？	側方:右向き 正面上下:左向き
眼振の種類は？	律動性(衝動性)
静止位は？	なし
Alexanderの法則	なし



眼振の向きは？	なし
眼振の種類は？	振子様
静止位は？	なし
Alexanderの法則	なし